

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立飯南高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>○変化の大きいこれからの社会で、自分らしくたくましく「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を育成する学校</p> <p>○高校生が地域に貢献し地域を活性化させる、「地域創生の核」となる学校</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○学習、部活動、学校行事等に積極的に取り組み、「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を身につけた生徒</p> <p>○地域と連携した活動に積極的に参加し、自分らしさを発揮して地域や周囲の人の役に立てることを自己の喜びと感じられる生徒</p>
	ありたい 教職員像	<p>○生徒の「生きる力」の育成のために、組織的に取り組み、生徒とともに自らも学び成長し続ける教職員</p> <p>○家庭、小中学校、地域との連携を積極的に図り、地域の学校としての価値を創造しようと努力し続ける教職員</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒>安心安全で充実した高校生活を送り、「生きる力」を身につけ、自己の進路希望を実現すること。</p> <p><保護者>キャリア教育を推進し、社会に適応し活躍できるようにしてほしい。</p> <p><地域>地域の高校として、地域と連携したキャリア教育を通して生徒を育て、地域の活性化に寄与する人材を育成してほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 授業、学校行事の様子など、学校の情報を発信してほしい。</p> <p><中学校> 入試情報についての相互理解を深めてほしい。</p> <p><地域社会> 地域人材の育成、地域の活性化のため、行事における協力、交流を進めてほしい。</p>	<p><家庭> 教育方針を理解の上、家庭でできる挨拶、コミュニケーションの実践を進めてほしい。</p> <p><中学校> 地域の高校としての現状を理解し、連携の強化を引き続き積極的に進めてほしい。</p> <p><地域社会> 地域の高校として、地域で学ぶ機会を増やすとともに、地域における就業機会が得られるよう支援してほしい。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大により時代が進んだという認識を前提に、終息後に全て元に戻すのではなく、オンラインの活用等、継続して取り組んでほしい。 ・四大への進学が増える等、進路の幅が広がったのは良かった。 ・旧松阪市内でのイベント等への参加等、飯南地域外へのPRへの工夫を。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の学びの集大成として、生徒は「いいなんゼミ」発表会において、自ら取り組んだ研究内容のプレゼンテーションを行っている。地域課題について、調べるだけでなく解決のために行動する生徒も育ってきた。今後はより多くの生徒にとって、「自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題」に取り組めるよう発展させていくとともに、1・2年次から探究のスキルを身につけられるよう指導計画を整備する必要がある。 ・「生徒が主体的に学ぶ授業」を一層進めるため、教職員研修を重ねてきた。引き続き研修会を設定するとともに、指導方法、指導内容の改善のため、教員間での「学び合い」の機会を持つことが必要である。 ・長年にわたり基礎学力を向上させる取組を継続的に行ってきた土台の上に、学びの基礎診断を3年間の見通しを立てて導入し、少しずつその成果が出つつある。今後、データをより緻密に分析し、学力向上の取組を組織的に一層改善し続ける仕組み作りが必要である。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校がコミュニティ・スクールとなり、小中高のコミュニティ・スクールが緩やかにつながることとなった。地域住民や小中学校等、多様な関係者と連携・協働し、生徒を育てる仕組みを一層整備していく必要がある。 ・連携中学校との連携を深めるだけでなく、連携外中学校との相互理解を強化する必要がある。 ・校務の多様化の中で過重となりがちな教職員の総勤務時間を縮減していく必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・変化の大きいこれからの社会で、自分らしくたくましく「生きる力」を育成するため、地域と協働し地域課題解決型キャリア教育を推進する。地域を学びの場とした探究活動を進めるため、「本気の大人」の「本気の伴走」をコーディネートし、「正解のない問い」に対して「とことん考える」場を作る。 ・生徒が主体的に自ら学ぶ姿勢を育むとともに、学力の向上を図るため、アクティブラーニング型授業に取り組む。 ・生徒の自己肯定感を育み、自他の生命及び人権尊重の精神を育成するための人権教育を推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働により生徒を育て、地域の活性化に寄与できる互恵的関係を構築することで、地域の子どものみならず地域外の子どもにとっても進学したい高校としていく。そのために、コミュニティ・スクールとして、「社会に開かれた教育課程」と「学校を核とした地域創生」の両立を目指す。 ・これからの社会で求められる力を育成できるよう、授業力向上のための研修や新しい教育課程編成に組織的に取り組む。 ・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得られるよう、業務内容を見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1) 生徒が主体的に学ぶ力を身につけるため、アクティブラーニング型授業に取り組むとともに、より効果を上げるためICTの活用を推進する。</p> <p>(2) 基礎学力定着のための SHR 学習を行い、「学びの基礎診断」を実施し、生徒の客観的学力の定着と向上を図る。</p> <p>【活動指標】生徒、保護者対象の満足度調査、授業参観時の保護者アンケートを、各1回ずつ実施する。</p> <p>【成果指標】飯南高校で学ぶことに対して満足している生徒の割合を90%以上とする。</p>	(年度末および適宜記載)	※ ◎
生徒指導の充実	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立をめざし、毎日、登校指導を行い、挨拶の大切さを理解させるとともに、厳しくも懇切丁寧な頭髪・服装指導を組織的に行う。</p> <p>【活動指標】朝の登校指導を原則毎朝実施する。</p> <p>【評価指標】年間遅刻者数前年度比5%減。</p> <p>(2) 新入生の全員クラブ登録を奨励し、生き生きとした学校生活の実現と部活動の活性化を目指す。</p>		◎※
キャリア教育の充実	<p>(1) 「地域課題解決型キャリア教育」を推進し、総合学科の特色である入学年次の「産業社会と人間」、2年次の「キャリアデザイン」、3年次の「いいなんゼミ」等を通じて、「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を向上させる。</p> <p>(2) 中高連携や高大連携、地域の社会人講師による授業など、多様な魅力的な学びの場を提供する。特に、各系列の授業において地域と連携した学びの一層の充実を図る。</p> <p>【活動指標】 「産業社会と人間」でフィールドワークを年2回実施する。 「キャリアデザイン」で『本気の大人』講演会を年3回実施する。また、地域の企業を中心にインターンシップを実施する。</p> <p>【成果指標】「対話力」「追究力」「創造力」「発信力」がついたと答えた生徒の割合を1年次 60%以上、2年次 70%以上、3年次 85%以上とする。</p>		◎

人権教育の 充実	(1)人権 LHR 等において、教員も含めた意見交換のできる学習を取り入れていく。自他の考えを尊重し、多様性を認めあい、お互いを思いやることができる仲間づくりを行う中で、生命の尊厳を理解できる人権学習を進める。		※
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	(1)生徒の意欲向上、学力向上のために、授業改善の職員研修や公開授業を実施する。 【活動指標】 公開授業年2回以上実施 職員研修年3回以上実施(ICT活用を含む) (2)学力向上のために、学びの基礎診断のデータを基に、3年間を見通した組織的な指導方法の改善システムを進化させる。 (3)新学習指導要領に基づく評価方法について整備する。	(年度末および適宜記載)	◎
キャリア教育の 充実	(1)就職実現アドバイザーとの連携や求人開拓を進める一方で、早期離職を防止するために卒業後も就職先を訪問するなど職場定着に向けた取り組みを推進する。 【活動指標】 卒業生の就業状況確認と求人依頼のための職場訪問を行う。 (2)3年間の進学指導計画の整備を進める。 (3)「正解のない問い」に「本気の大人」と取り組み、「とことん考え抜く」取り組みを進める。		※ ◎
働きやすい職場 環境づくり	(1)チームとして仕事をする体制作りを進め、総勤務時間の縮減を図る。 (2)委員会を整備し、負担の軽減を図るとともに、各取り組みの持続可能性を高める。 【活動指標】 定時退校Dayを月1回設定し、設定した日の定時に退校できた職員の割合70%以上 部活動休養日を週1日以上設定し、予定どおり休養日を実施できた部活動の割合100% 放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合70%以上 【成果指標】 年 360 時間を超える時間外労働者数0人 月45時間を超える時間外労働者の延べ数0人 1人当たりの月平均時間外労働25時間以下 一人当たりの年間休暇取得日数 20日以上		◎※

改善課題

(年度末に記載)

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
学校運営につ いての改善策	(年度末に記載)